

外務省での勤務を通して

平成29年2月

外交実務研修員 川崎 剛太郎

(横浜市から派遣)

1 はじめに

私は、平成 27 年4月に横浜市国際局から外交実務研修員として、外務省国際協力局地球環境課に配属となりました。

横浜市では区役所の地域振興課や教育委員会事務局での勤務の後、国際政策室からの出向で国際協力事業を実施している外部団体“シティネット横浜プロジェクトオフィス”の企画課長として、フィリピンでの防災事業、スリランカでの環境教育事業などアジア諸国との国際協力事業の立案・実施に携わりました。また、市への入庁前には、製造業(建設機械メーカー等)での設計・強度解析や、セネガル教育省での青年海外協力隊の活動(コンピューター技術隊員)など様々な職業に従事する中、海外との文化交流や国際協力の分野で貢献したいと常に考えておりました。



国連森林フォーラム専門家会合
於: ニューヨーク国連本部

私が配属された地球環境課では、まさに「国レベルの対話・多数国間の意見調整」が求められることに緊張の連続でした。常に困難に直面し、試行錯誤しているうちに、いつの間にか配属から2年を迎えつつあるという状況ではありますが、私の担当した業務の概要をご紹介します。

2 地球環境課での業務

地球環境課に配属が決まり、なんと壮大な名称の課だろうと驚きました。私の担当は、森林と酸性雨関係の国際機関などです。配属初日に、「すぐにニューヨーク出張だから公用パスポートと査証(ビザ)の申請が必要です」と告げられてから現在まで、タイ4回、米国3回、マレーシア1回、横浜1回と、合計9回の国際会議に出席させて頂きました。

会議では、日本の国益を確保しつつ、国際機関の具体的な取組内容・実施計画等を議論し、参加国の意見の一致を図ります。多くの場合、利害



東アジア酸性雨モニタリングネットワーク政府間会合
於：バンコク国連会議センター

関係が相反する国々の意見の一致を図ろうとするものであり、簡単には議論は収束しません。また、会議によっては、外務省からの出席が私一人という場合もあり、私の



国際熱帯木材機関(本部:横浜)理事会
於：クアラルンプール

発言が外務省、つまりは日本を代表する発言となるどころ、緊張を乗り越えて開き直りの境地さえ経験しました。当然ながら、会議にあたっては、事前の会議文書の分析、他国の最新情報の入手、会議の流れのシミュレーションなどを踏まえ、方針決定を行ってから臨みます。そう

は言っても、現場で刻々と変化する多数国間の議論の状況に応じて、議場外での個別の調整及び議場での発言を通じて日本の国益を確保するという事は、私にとっては、大変難易度の高い業務です。ある合意文書の文言調整の議論では、日本の意見が孤立してしまうこともありましたが、粘り強く相手国や関係省庁等と調整を図り、

意見の一致に至ることができました。

上司や同僚，他国及び国際機関の担当者など，周りのサポートに支えられながら，なんとか今日までやってこられたというのが正直な感想です。

3 今後に向けて

まもなく配属から丸2年を迎えようとしておりますが，これまでに私が感じたことは，外務省は，とても個人能力が高く，そして人間味に溢れた人々が，日本の国益確保のために日々昼夜を問わず尽力している場所だということです。また諸外国の外交担当者や国際機関の職員らに対しても，同様に感じました。こちらが奮闘しているのと同様に，相手側も国の政策の一端を担っている担当者ですので，意見が衝突することもあります。これまで，いろいろな場所で様々な国の方と意見を交わしてきました。

家族の写真を交換し，悩み事を相談し合うなどの信頼関係を築くことができた他国の方もいます。

担当分野において国を代表するという経験をさせて頂いたことは，私自身にとってかけがえの無いことです。4月からは，さらに2年間，在外の日本国大使館にて



国際熱帯木材機関(本部:横浜)理事会
於:クアラルンプール

外交に携わる予定となっております。外務省の本省と在外公館双方での勤務及び在外での生活を通じて得られる経験や繋がりは，将来，横浜市に戻ってからも「自治体の国際政策」や「自治体が行う国際協力」に携わる際に大きな力となると確信します。

常に学びの姿勢と周りの皆様への感謝を忘れず，引き続き，多くを吸収していきたいと思えます。

(了)